

またのみち通信

北★北海道高速交通情報紙

第22号

令和元年7月発行

【企画・編集】

北の星座共和国建国推進事務局

北海道上川郡下川町西町88番地2
Tel:01655(4)2595 Fax:01655(4)2596
E-mail:kitamichi@seiza.ne.jp

【発行】

北★北海道に高速道路を実現する住民の会
未来のくらしと宗谷路(ネットワーク)を考える会
ビッグオポーツフォーラム実行委員会
北★北海道交通研究実行委員会(副道と改革)
オポーツのみちと未来を考える会

「深川留萌自動車道」

令和元年度全線開通予定!!



北海道縦貫自動車道の深川JCTを起点として留萌市に至る高規格幹線道路「深川留萌自動車道」(延長約50km)が令和元年度に全線開通の予定。同自動車道は平成10年に深川ICが開通後、留

萌方面に順次工事が進み、同25年3月に留萌大和田ICまで開通し、残すは留萌IC(仮称)までの約4.1kmの工事完成を待つだけである。

同道路の全線開通は、札幌市や旭川市などとのアクセス性を高め、人やモノの流れの効率化が期待されるほか、高次医療施設までの速達性や安定性が向上することによって、この地域で暮らす人々の安心・安全度も大きく高まる。

その一方、道内の水揚量の約75% (約861万t) を占める留萌管内産の甘エビは、同道路による

流通利便性の向上により、道外市場への拡大も図られ、全線開通による更なる地域産業の活性化が期待される。

この道路に関しては、留萌振興局が同自動車道全線開通地域活性化協議会を結成し、「おもてなし」をキーワードに各種イベントを実施。また、留萌南部地域広域観光連携協議会(事務局・留萌市)が「留萌地域魅力発信キャンペーン」を実施するなど、留萌圏の住民にとって、待ちに待った同道路の全線開通がいよいよ目前だ。

i-Construction推進セミナー

生産性を向上させ、魅力ある建設現場を目指す「i-Construction推進セミナー」が10月25日、留萌開建ではじめて開かれた。

受発注者双方が対象で、北海道開発局の技術担当者から「i-ConstructionとBIM/CIMの取組み」について説明があったあと、開建設シテム札幌営業所の担当者が「起工測量から出来形管理について」と題し、また阿部口組の担当者が「ICT技術を活用した施工事例」をテーマに現場の状況を詳しく説明した。

2団体が「道路功労表彰」

国土交通省が実施する「道路ふれあい月間」(毎年8月1〜31日)の一環行事として、北海道開発局「平成30年度道路功労表彰」が行われ、当麻町花と緑のまちづくり推進協議会と稚内養護学校高等部が北海道開発局長表彰を受けた。

道路の清掃や花壇の整備などの美化活動、道路愛護の啓発などに顕著な功績のあった団体、個人を対象にした表彰で、それぞれ歩道部植栽帯への花の植栽や雑草取り、冬道に欠かせない滑り止め用の砂をベトナムに詰めて取納ボックスに設置する作業などに取り組んでいる。

「完全走覇者」が一気に2割増!

宗谷管内「道の駅」品質向上協議会が開催した「2018道の駅北ぐるりんスタンプラリー」(平成30年6月1日〜10月31日)の応募結果がまとまった。それによると、応募総数は前年度比約1割増の2698人でそのうち、宗谷管外からの参加が9割以上を占めるなど、この地域限定

のスタンプラリーが道内外から道北地域への観光集客に大きく貢献していることが数字の上でも示された。

同協議会が、稚内開建と宗谷管内の4カ所の「道の駅」(さるふつ公園、マリーンアイランド岡島、ピンネシリ、わかかない)、上川管内2カ所の「道の駅」(ながかわ、おといねづつ)と連携し、「道の駅」の機能及び魅力向上に向けて企画

した取組みで、平成25年度から実施され、今回で6回目。応募者数は平成27年度が2075人、28年度は1993人だったが、このイベントの認知度の高まりとともに、29年度は2410人とし、今回はさらに約1割増の2698人。このうち6駅すべてを周遊した「完全走覇者」も前年度比約2割増の1867人とした。

注目すべきは、スタンプラリー期間中の「道の駅」への入込数、さらにそのうちの道内者(宗谷管外)及び道外者の多さ。入込総数は前年度を約6万人上回る85万3777人としたほか、その居住地をみると、道内が約67%、道外が26%と、宗谷管外からの入込数が93%を占め、このイベントの目的である道北地域の観光集客増加に着実な歩みを示していることが明らかにした。

「北・北海道高速交通フォーラム」開催 士別―稚内間の1日も早い全面開通を!!



の声として強く訴えていく必要があると、平成15年12月に名寄市で1回目が開催され、以後、エリア内の各地域を会場に開かれ、今回が15回目。平成最後の節目にあたることから、かねてから強い要望のあった稚内市で初めて開催された。

冒頭、主催者を代表して北★北海道に高速道路を実現する住民の会の山崎晴一(副代表・高橋伸典代表代理)が「私たちはこのところ頻発する大災害を経験し、災害に勝ち抜いていかなければならない。日本では、どうしても高速道路路網が必要だと認識させられた。高速道路路網は本来、国土の均衡あ

北海道縦貫自動車道士別市、稚内市間「北・北海道高速交通フォーラム」が10月4日、稚内総合文化センターで行われ、上川北部及び宗谷管内の自治体首長、道路事業関係者、住民らが同自動車道の「ミッシングリンク」を解消させ、士別市―稚内市間の1日も早い全面開通を実現させるため、気持ちを一つに取り組んでいく決意を新たにしました。

北・北海道の高速道路事業がなかなか進まないことから、地元

の発展の主眼として計画された。今風にいえば地方創生の大きな柱であることはいうまでもない。均衡ある発展と地域創生を進めて行くためには、どうしてもこの高速道路網が必要だ。このまま放っておけば、放置されかねないという恐怖を皆さまと共有したい。士別―稚内間の未着工区間の早期の着工を強く訴える」などと開会挨拶した。

続いて来賓の紹介があり、士別市の牧野勇司市長、稚内市の工藤広市長、北海道開発局建設部の倉内公嘉部長がそれぞれ来賓挨拶を行ったあと、「(財)国土技術研究センターの谷口博昭理事長(芝浦工業大学客員教授)が「信頼される高速交通と地方創生」をテーマに基調講演(別稿参照)した。

共催 稚内市

編集後記

は、名詞について尊敬の意を表す接頭語「み(御)と、「血」や「千」、「知・智」などの意味を持つ「ち」が合わさった言葉だと伝えられる。日本人は古来、道路、通路以外に「道のり」「方面」「専門の道」「手立て」「道理」など、この言葉に多様な意味を含めて使ってきたが、そう考えると、高速道路の実現を訴える人たちがキーワードとする「命のみち」が表現するものもグンと、深さを増すように思ふが...